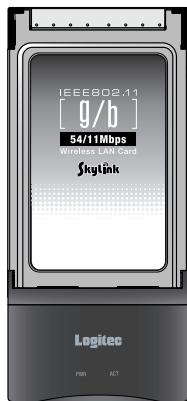


Wireless PC Card

IEEE802.11g/b対応 54/11Mbps無線LANカード
LAN-WG/CB

User's Manual







このマニュアルは、別冊の「セットアップガイド(導入編)」、
「セットアップガイド(クイック接続編)」とあわせてお読みください

お読みください	P1
無線LANの基本設定	P10
セキュリティ機能の設定	P25
クライアントユーティリティのリファレンス	P33
ネットワーク設定マニュアルの読み方	P48
トラブルが発生した場合	P50

●このマニュアルで使われている用語

意味	用語
無線LANクライアント	このマニュアルでは本製品などの無線LANカード、無線LAN PCIボード、無線LANアダプタを取り付けたパソコンのことを無線LANクライアントと呼んでいます。

●このマニュアルで使われている記号

意味	用語
	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。
 	キーボード上のキーを表します。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- 本製品に付随するドライバ、ソフトウェア等を逆アセンブル、逆コンパイルまたはその他リパースエンジニアリングすること、弊社に無断でホームページ、FTPサイトに登録するなどの行為を禁止させていただきます。
- このマニュアルの著作権は、ロジテック株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。
- 本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- 本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートはおこなっておりません。
- 本製品を使用した結果によるお客様のデータの消失、破損など他への影響につきましては、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。重要なデータについてはあらかじめバックアップするようお願いいたします。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

LAN-WG/CB

User's Manual ユーザーズマニュアル

■ はじめに ■

重要 このユーザーズマニュアルは以下の場合にお読みください。

- ・ 本製品の詳細な無線LAN設定をおこなう。
- ・ 設定ユーティリティの詳細な機能を参照する。



導入手順については、別冊「セットアップガイド（導入編）」、簡単な無線LAN設定方法については、別冊「セットアップガイド（クイック接続編）」をお読みください。

このマニュアルでは一部の表記を除いて各製品名を「本製品」と表記しています。


このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。


安全にお使いいただくために


けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。


 警告	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。

警告


 **本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。**
火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。

 **本製品を取り付けたパソコン本体から煙やへんな臭いがしたときは、直ちに使用を中止しただうで電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店もしくは当社テクニカルサポートまでご連絡ください。**
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

 **本製品を取り付けたパソコン本体に、水などの液体や異物が入った場合は、直ちに使用を中止しただうで電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店もしくは当社テクニカルサポートまでご連絡ください。**
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

 **本製品および本製品を取り付けたパソコン本体を、水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。**
火災や感電、故障の原因になります。

注意

 **本製品の取り付け、取り外しのときは、必ずパソコン本体および周辺機器メーカーの注意事項に従ってください。**



本製品の取り付け、取り外しのときは、本製品に触れる前に金属性のもの(スチールデスク、ドアのノブなど)に手を触れて、静電気を除去してから作業をおこなってください。

静電気は本製品の破損の原因になります。



本製品および本製品を取り付けたパソコン本体を次のようなところで使用しないでください。

- ・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
- ・直射日光のあたるところ
- ・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
- ・静電気の発生するところ、火気の周辺



長期間、本製品を取り付けたパソコン本体を使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。

故障の原因になります。

無線LANをご使用になるにあたってのご注意

- 無線LANは無線によりデータを送受信するため盗聴や不正なアクセスを受ける恐れがあります。無線LANをご使用になるにあたってはその危険性を十分に理解したうえで、データの安全を確保するためセキュリティ設定をおこなってください。また、個人データなどの重要な情報は有線LANを使うこともセキュリティ対策として重要な手段です。
- 本製品は電波法に基づき、特定無線設備の認証を受けておりますので免許を申請する必要はありません。ただし、以下のことは絶対に行わないようにお願いします。
 - ・本製品を分解したり、改造すること
 - ・本製品の背面に貼り付けてある認証ラベルをはがしたり、改ざん等の行為をすること
 - ・本製品を日本国外で使用する
 これらのことに違反しますと法律により罰せられることがあります。
- 心臓ペースメーカーを使用している人の近く、医療機器の近くなどで本製品を含む無線LANシステムをご使用にならないでください。心臓ペースメーカーや医療機器に影響を与え、最悪の場合、生命に危険を及ぼす恐れがあります。
- 電子レンジの近くで本製品を使用すると無線LANの通信に影響を及ぼすことがあります。

もくじ

はじめに	1
安全にお使いいただくために	2
もくじ	4

Chapter 1 概要編

1. 製品の保証について	6
2. 本製品の概要について	7
本製品の特長	7

Chapter 2 無線LAN接続編

1. 無線LANの基本機能を設定する	9
使用するネットワーク(SSID)を 設定する	11
WEPを設定する	14
無線LANに接続する	18
導入後のご使用にあたって	19

Chapter 3 応用編

1. セキュリティ機能について	22
セキュリティ機能の種類	22
SSIDの設定について	24
2. セキュリティ機能を設定する	25
WEPを設定する	25
WPA-PSKを設定する	30
事前共有キー(静的WEP)を設定する	32
3. クライアントユーティリティの リファレンス	33
[ステータス]タブ	33
[設定]タブ	34
[拡張]タブ	37
[プロファイル]タブ	40
[利用可能なネットワーク]タブ	42
[統計情報]タブ	44
[アダプタ情報]タブ	45

Chapter 4 付録編

1. ネットワーク設定マニュアルの読み方	48
2. 無線LANトラブル・チェック	50
3. こんどときは	53
4. 補足事項	56
PCカードスロットの動作確認	56
正常にインストールされなかったドライバの 削除方法	58
本製品のIPアドレスを知りたいとき	59
Windows 98のバージョン確認方法	60
Windows XP標準ワイヤレス ネットワーク機能を有効にする	61

Tios 用語解説

アドホック・モード/ モード/SSID	8
IPアドレスについて	46

Chapter 1

概要編

本製品の概要について説明しています。

本製品の導入手順、各部の名称、動作環境については、別冊「セットアップガイド（導入編）」をお読みください。

1. 製品の保証について 6
2. 本製品の概要について 7

1 製品の保証について

製品の保証とサービス

本製品には保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はご購入の日より1年間です。保証期間を過ぎたの修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、ご購入の販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

- ・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- ・本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- ・本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

詳しい保証規定につきましては、保証書に記載された保証規定をお確かめください。

●その他のご質問などに関して

別冊の「セットアップガイド（導入編）」の、「サポートサービスについて」をお読みください。

2 本製品の概要について

本製品の特長

- IEEE802.11g/bの2つの規格に対応した54Mbps&11Mbps無線LAN
2.4GHz帯で最大伝送速度54MbpsのIEEE802.11gと同じく2.4GHz帯で最大伝送速度11MbpsのIEEE802.11bの2つの規格に対応した高速無線LANカードです。周囲の環境条件やデータ量などに合わせて規格を切り替えることで、ケーブルレスでも常に快適なネットワーク環境を利用できます。
- IEEE802.11g/bの中から優先するネットワークに接続可能
無線LANアダプタ同士で通信するアドホック・モードと、アクセスポイントや無線ルータを使用するインフラストラクチャ・モードに対応します。インフラストラクチャ・モードでは、優先するネットワークに登録されたSSIDを見つけると規格に関係なく自動的に優先度の高いSSIDに接続できます。
- 伝送方式にOFDM方式を採用
OFDM(Orthogonal Frequency Division Multiplexing = 直交周波数分割多重)方式は、データを多重化して送信するマルチキャリア伝送方式で伝送特性の劣化を軽減することができる最新技術の伝送方式です。
※IEEE802.11b(11Mbps)はDS-SS方式(直接拡散スペクトラム拡散方式)を採用しています。
- WPA規格に対応
Wi-Fiアライアンスが提唱するWPAのうち、ホームユース向けのWPAバスターズ(WPA-PSK)に対応しました。暗号化方式については64/128ビットのWEPIに加え、TKIPにも対応。より安全度の高いデータ送信を実現できます。
- プロファイル機能を搭載
接続ごとに無線LAN設定を変更しないで済むように、設定を保存できるプロファイル機能を搭載しています。会社や自宅と外出先での設定の切り替えはもちろん、認証方式の保存にも役立ちます。

●CardBus対応で54Mbpsのパフォーマンスをフルに発揮

本製品はバス幅の広いCardBus(カードバス)対応なので16ビットのPCMCIA規格に比べて、54Mbpsという高速無線LAN通信のパフォーマンスを十分に発揮することができます。

●その他、豊富な機能を搭載

- ・プラグ&プレイでインストールも簡単
- ・使いやすい設定ユーティリティ
- ・接続先のさまざまな情報を取得可能

Tips 用語解説

アドホック・モード/インフラストラクチャ・モード/SSID

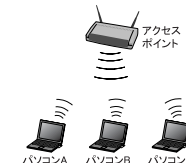
●アドホック・モード(Ad-Hoc Mode)

無線LANクライアント(無線LANアダプタを取り付けたパソコン)同士が直接データのやり取りをする通信モードです。無線ルータやアクセスポイントを使用しません。



●インフラストラクチャ・モード(Infrastructure Mode)

無線LANクライアントが無線ルータやアクセスポイントを中継してデータをやり取りします。アクセスポイントなどに装備されたLANポートを使うことで有線LANとも接続することができます。



●SSID(Service Set ID)

複数の無線LANが隣接した場所にあると、他の無線LANネットワークと混信する恐れがあります。そこで他のネットワークと自分たちのネットワークを区別するためにSSIDと呼ばれる無線LANのネットワーク名称を決めることができます。同じ無線LANのグループに所属するパソコンには同じ名称のSSIDを設定することで、他のSSIDを持った無線LANグループとは区別され、混信や不正アクセスなどを防ぐことができます。

※SSIDはESS IDと表示されていることもあります。

Chapter 2

無線LAN接続編

「セットアップガイド（導入編）」に従ってドライバと設定ユーティリティのインストールが終わったら、無線LANの基本設定をおこないます。

ご使用の通信モードにより、次のように設定を進めてください。

①無線ルータやアクセスポイントを使用して通信する場合（インフラストラクチャ・モード）で、セキュリティ機能にWEPを使用する場合

→別冊の「セットアップガイド（クイック接続編）」をお読みください。

※ 次ページ以降をお読みになっても設定できます。

②無線LANアダプタ同士のみで通信する場合（アドホック・モード）

→次ページ以降をお読みください。

③WEP以外のセキュリティ機能をご使用になる場合

→次ページ以降をお読みください。

1. 無線LANの基本機能を設定する 10

1 無線LANの基本機能を設定する

最小限必要な基本設定をして無線LANを使用できるようにします。はじめにご使用の通信モードに合わせて設定に必要な情報を用意しておいてください。



セキュリティ機能の設定について

無線LANの普及により以前に比べて不正アクセスや盗聴などのセキュリティ問題が多く発生しています。無線LANをご使用になる場合は、セキュリティ機能を設定することを強くお勧めします。

●インフラストラクチャ・モード

（無線ルータやアクセスポイントと通信するモード）をご使用の場合
無線ルータまたはアクセスポイントで設定した下表の内容のメモをご確認ください。

●アドホック・モード

（無線LANアダプタ同士だけで通信するモード）をご使用の場合
あらかじめ下表の内容を決めてメモしておいてください。

【設定内容メモ】

<input type="checkbox"/>	SSID	無線LANのネットワーク名です。32文字以内の半角英数字です。大文字と小文字が区別されますのでご注意ください。
<input type="checkbox"/>	WEP	セキュリティ機能のWEPを使用する場合は以下の情報を用意するか、新しく決めてください。 ・ WEPのキーの長さ（ビット数と、半角英数字か16進数かの文字種） ・ 使用するキー番号 ・ 暗号キー（半角英数字または16進数の文字列） ※WEPについてはP25「WEPについて」に説明があります。

※セキュリティ上、設定内容の取り扱いに十分ご注意ください。

●WEP以外のセキュリティ機能をご使用になる場合

以下の手順で設定してください。

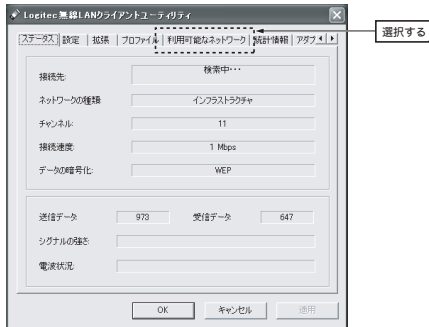
- ① 次ページ「使用するネットワーク名（SSID）を設定する」を読んでからSSIDなどの設定をします。
- ② P25「2.セキュリティ機能を設定する」の中から該当するセキュリティ機能の説明を読んでから設定します。
- ③ P18「無線LANに接続する」を読んで無線LANで接続できることを確認します。

使用するネットワーク (SSID) を設定する

- 1** [スタート]→[(すべての)プログラム]→[Logitech]→[LAN-WG]→[Logitech 無線LANクライアント ユーティリティ]を選択します。

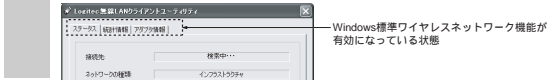


- 2** 初期画面(ステータスタブが選択された状態)が表示されます。<利用可能なネットワーク>タブを選択します。

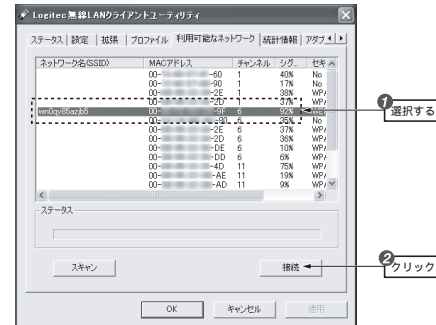


MEMO 異なる画面が表示された場合

Windows XPで下記の画面が表示された場合は、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク機能が有効になっています。P61を参照して、無効にした上で作業を続けてください。



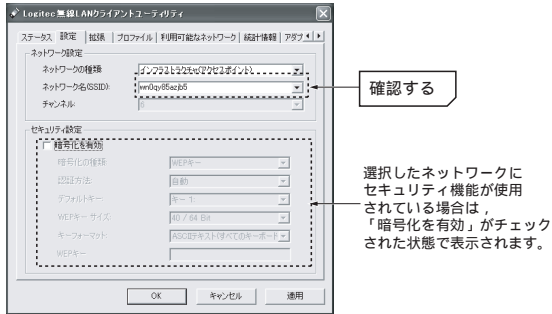
- 3** 利用可能なワイヤレスネットワークの一覧が表示されますので、使用する「ネットワーク名(SSID)」を選択して、[接続] ボタンをクリックします。



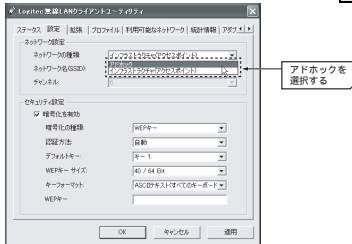
MEMO 使用するネットワーク名(SSID)が表示されない場合は?

[スキャン] ボタンをクリックしてネットワーク一覧を更新してみてください。それでも表示されない場合は、使用するアクセスポイントなどの無線機器の状態を確認してください。

- 4** <設定> 画面が表示されますので、[ネットワーク名(SSID)]にSSIDが表示されていることを確認します。



- ・SSIDは半角英数字32文字以内で設定します。全角文字や記号、スペースは使えません。大文字と小文字が区別されますので注意してください。
- ・アドホック・モードで使用する場合は、**OK** ボタンを押す前に、「ネットワークの種類」から「アドホック」を選択して **OK** ボタンをクリックします。



- ・アドホック・モードとは、無線ルータやアクセスポイントを使用せず無線LANアダプタ同士だけで通信するモードです。

注意 インフラストラクチャ・モード(無線ルータやアクセスポイントで使用するモード)の場合は、「インフラストラクチャ」のまま変更しないでください。

- 5** WEPを設定する場合は、このまま次ページの「WEPを設定する」へ進みます。その他の場合は **OK** ボタンをクリックして、手順へ **6** 進みます。

- 6** このあとは、P18「無線LANに接続する」へ進みます。

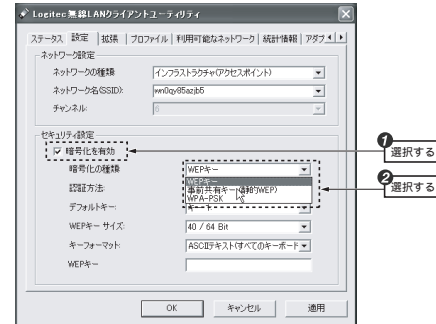
MEMO WEP以外のセキュリティ機能を設定する場合

P25「2.セキュリティ機能を設定する」の中から該当するセキュリティ機能の説明をお読みになり設定してください。設定後、P18「無線LANに接続する」をお読みください。

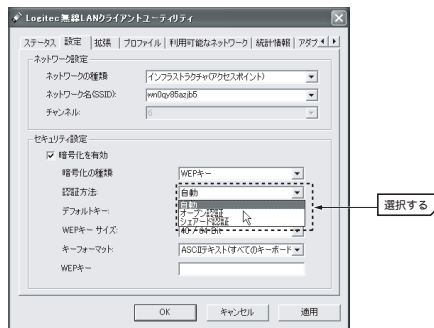
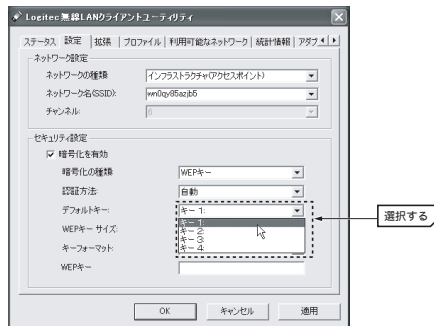
WEPを設定する

引き続き「プロファイル管理」画面でWEPを設定します。無線ルータやアクセスポイント側にWEPを設定した場合は、設定したWEPの情報をご用意ください。アドホック・モードの場合はあらかじめ決めておいた内容をご用意ください。

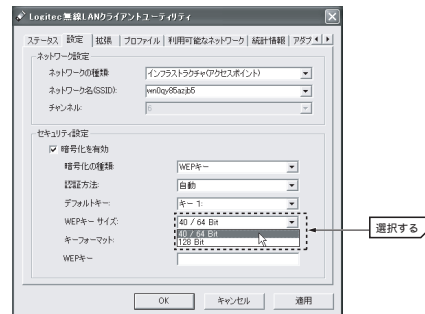
- 7** <設定>画面で、[暗号化を有効]をチェックし、[暗号化の種類]から「WEPキー」を選択します。



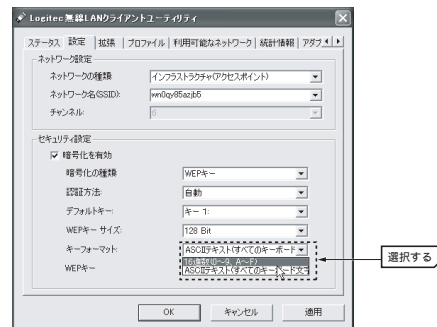
※P12の手順 **3** で選択したネットワーク(SSID)が、WEPで暗号化されている場合は、WEPキーが選択された状態で画面が表示されています。

2 [認証方法] を選択します。通常は「自動」のままでかまいません。**3** [デフォルトキー] から、使用するキー番号を選択します。

- 無線ルータやアクセスポイントをご使用の場合は、それらの機器と同じ設定にします。

4 [WEPキーサイズ] から、WEPキーのビット数を選択します。

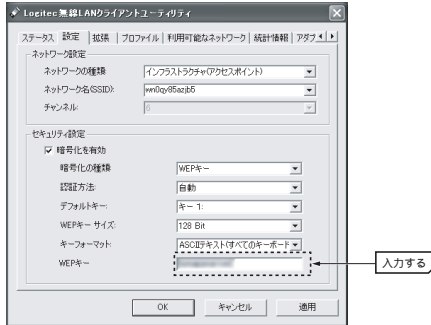
- 無線ルータやアクセスポイントをご使用の場合は、それらの機器と同じ設定にします。
- アドホック・モードの場合、あらかじめ決めておいたキーの長さを選択します。

5 [キーフォーマット] から、暗号キーの書式を選択します。

- 無線ルータやアクセスポイントをご使用の場合は、それらの機器と同じ設

定にします。

6 [WEPキー]に暗号キーの文字列を入力します。



・文字数は指定数よりも多くても少なくてもエラーになります。

※ [キー入力]で「ASCIIテキスト」を選択した場合、大文字/小文字が区別されます。「16進数」の場合はa~fおよび0~9の半角英数字の組み合わせで大文字/小文字は区別されません。いずれの場合も全角文字や記号、スペースは使えません。

注意 このあと、設定を保存すると、入力したWEPの暗号キーが「*」表示になります。暗号キーは忘れないようにメモするなど大切に保管してください。

注意 無線LANで接続できないおもな原因はSSIDおよびWEPの設定・入力ミスです。設定内容が正しいかもう一度確認してください。

7 設定を保存するために「OK」ボタンまたは「適用」ボタンをクリックします。



8 これでWEPの設定は完了です。このあとは次の「無線LANに接続する」へ進みます。

無線LANに接続する

〈設定〉画面の設定が終われば接続テストをします。無線ルータやアクセスポイントをご使用の場合は電源を入れておいてください。

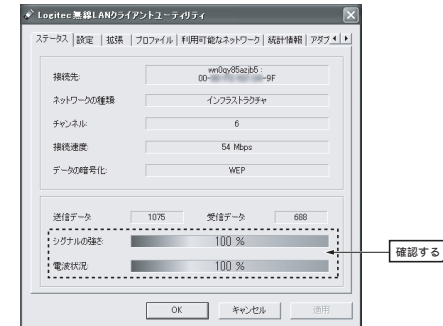
1 アドホック・モードの場合は以下の説明をお読みください。インフラストラクチャ・モードの場合は手順 2 へ進みます。

●アドホック・モードでの接続確認

同じ設定をした無線クライアントが2台以上必要になります。次の手順で接続確認をしてください。

- ①1台目の設定はここまでで終了します。
- ②2台目も1台目と同様にここまでの設定作業をおこないます。
- ③1台目のパソコンの電源を入れておきます。
- ④2台目のパソコンについて、次の手順 2 へ進みます。

2 「Logitech無線LANクライアントユーティリティ」を表示し、〈ステータス〉タブが選択された状態で、[シグナルの強さ]、[電波状況]のインジケータが緑色の領域まで表示されていることを確認してください。



- 3** これで無線LANで接続できました。すべての作業は完了です。次の「導入後のご使用にあたって」をお読みください。

導入後のご使用にあたって

導入後は以下の点についてご注意ください。

●設定ユーティリティについて

本製品の導入後は、Windowsを起動すると自動的に無線LANに接続するようになります。設定ユーティリティについては、設定の変更など必要なときだけ起動してください。

- ・ 設定ユーティリティを起動するには[スタート]ボタン→[(すべての)プログラム]→[Logitech]→[LAN-WG]→[Logitech無線LANクライアント ユーティリティ]を選択します。プログラムが起動すると、アイコンがタスクトレイに常駐します。
- ・ 設定ユーティリティを終了するには、タスクトレイにある設定ユーティリティのアイコンを右クリックし、[終了]を選択します。



- ・ タスクトレイのアイコンは、ネットワーク接続時には緑色に、ネットワークに接続していないときは赤色で表示されます。

●セキュリティ対策について **重要**

本製品の導入後は、Windowsを起動すると自動的に無線LANに接続しますのでセキュリティについては十分ご注意ください。セキュリティ機能は必ず設定するようにしてください。また、定期的にSSID(ESS ID)を変更することをお

勧めします。

●接続先の切り替え

現在接続しているSSIDとは別のSSIDに接続したい場合は、P42「[利用可能なネットワーク]タブ」をお読みください。

●ネットワーク設定について

無線LANに正しく接続できても、各パソコンのネットワーク設定やインターネットへの接続設定が終わっていないとネットワークを利用できません。お使いのネットワーク構成に応じて、ネットワーク設定を行ってください。ネットワーク設定についてはP48「1.ネットワーク設定マニュアルの読み方」をお読みください。

●本製品の取り外し

Windows XPで本製品をお使いの場合、本製品をパソコンから取り外す際は、パソコンの電源を切ったあとにおこなってください。



通常、PCカードスロットに外部機器を接続すると、タスクトレイに「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示され、取り外しはアイコンをダブルクリックすると表示されるダイアログからおこないます。しかし、本製品は「ハードウェアの安全な取り外し」には表示されませんので、安全のため、パソコンの電源を切ってから作業をおこなってください。

※Windows 98/Me/2000では、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（Windows 98では「PCカードトレイ」アイコン）が表示されますので、こちらからデバイスを停止させたあとで取り外しをおこなってください。

Chapter 3

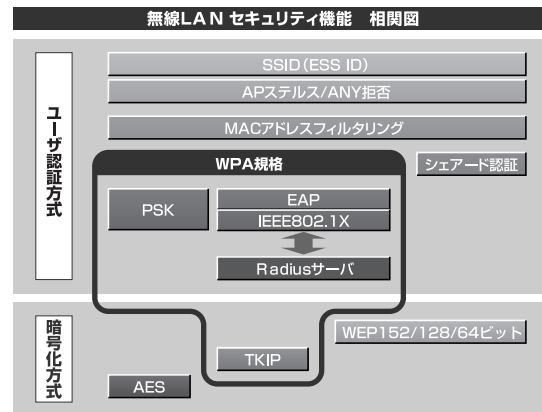
応用編

応用編ではセキュリティ機能の説明と設定方法、およびクライアントユーティリティの各機能について説明しています。無線LANに接続した後、セキュリティ機能を変更したり、クライアントユーティリティの各種オプションを変更する場合にお読みください。

1. セキュリティ機能について…………… 22
2. セキュリティ機能を設定する…………… 25
3. クライアントユーティリティのリファレンス… 33

1 セキュリティ機能について

無線LANの普及により、不正アクセスや盗聴などの問題も急増しています。無線LANが正常に使用できることを確認したあとは、セキュリティ設定をできるようにしてください。



セキュリティ機能の種類

本製品は次ページ以降の説明にあるセキュリティ機能が使用できます。この説明を参考にご使用の無線LANで設定可能なセキュリティ機能を利用してください。



ホームユースでのお勧めのセキュリティ機能は？

ホームユースの場合、「WEP」または「WPA-PSK」を使用してください。WEPの暗号化ビット数は128ビット以上を推奨します。
※アドホック・モードはWPA規格に対応していません。

●SSID(ネットワーク名)

無線LANのネットワークを区別するための名称です。同じSSIDを長期間使用していると、第三者にすぐにわかりますので、定期的に変更するようにしてください。また、変更の際は、そのネットワークで使用するすべての無線クライアントのSSIDを変更する必要があります。

●WEP

データの暗号化方式のひとつです。本製品では64/128ビットの2種類から選択できます。ビット数が高いほどセキュリティ度が高くなります。

暗号に使用する暗号キーの文字には半角英数字(ASCII文字)と16進数のいすれかが使用できます。

●TKIPとAES

いずれもWEPよりも強固な暗号化方式です。TKIPはWi-Fiアライアンスが提唱するWPA規格に含まれる暗号化方式で、AESはアメリカの政府機関などでも使用される暗号化方式です。インフラストラクチャ・モードではこのあと説明する「WPA-PSK」でTKIPを利用できます。なお、アドホック・モードでは利用できません。

●WPA-PSK (WPAパスフレーズ)

無線LANのさまざまな規格を協議するWi-Fiアライアンスが提唱する新しいセキュリティ「WPA規格」のひとつです。アクセスポイントに接続する無線クライアントに対してユーザ認証をおこない、さらにTKIPによってデータを暗号化するという二重のセキュリティ機能です。パスフレーズの設定が簡単なのでホームユースに適したセキュリティです。なお、WPA規格はアドホック・モードには対応していません。



WPA-EAP

WPA規格のもうひとつの機能です。ユーザ認証方式により厳格なIEEE802.1X認証を使用します。ただし、認証サーバであるRADIUSサーバが必要になりますので、大企業などのビジネスユースに適したセキュリティ機能です。本製品では使用できません。

IEEE802.1X

無線LANのセキュリティ規格のひとつです。認証サーバであるRADIUSサーバが必要になります。本製品では使用できません。

RADIUSサーバ

認証サーバの一種です。アクセスポイントに接続しようとする無線クライアントが接続を許可されたクライアントであるかどうかをあらかじめ配布された証明書やパスワードなどで確認し、正当なユーザであると判断できれば接続を許可します。

MACアドレスフィルタリング、APステルス/ANY拒否

これらはアクセスポイント側で設定するセキュリティ機能です。

SSIDの設定について

SSIDを製品出荷時のまま使用していたり、ずっと同じSSIDを使用していたりすると第三者に不正に侵入される恐れがあります。SSIDは定期的に変更するようにしてください。設定の方法はP11「使用するネットワーク(SSID)を設定する」を参考に新しいSSIDを設定し、優先するネットワークに登録してください。



不正に侵入されると・・・

SSIDを第三者に知られたために不正に侵入されると次のような危険があります。

- ・共有フォルダを設定している場合、共有フォルダ内のファイルをコピーして内容を見られることがあります。
- ・共有プリンタを設定している場合、勝手に利用される恐れがあります。
- ・ルータ経由でインターネットを利用している場合など、本来の利用者になりすましてインターネットに接続される恐れがあります。

2 セキュリティ機能を設定する

ここでは本製品で設定可能なセキュリティ機能の設定方法を説明しています。

- ・WEP このあと
- ・WPA-PSK P30
- ・事前共有キー（静的WEP） P32

WEPを設定する

WEPの解説と設定の手順について説明します。設定の手順についてはP26「WEPの設定手順」へ進んでください。

WEPについて

WEPは無線LANでもっとも一般的な暗号化方式です。WEPはあらかじめ決めた暗号キーを64(40)/128ビットで暗号化します。WEPを利用するにあたってはあらかじめ以下の内容を決めておく必要があります。

WEP設定に必要な内容

暗号化のビット数	40/64ビット・128ビットから選択
暗号キーの文字種	ASCIIテキスト(半角英数字)・16進数のいずれかを選択
WEPキー番号	キー1～キー4の4種類から選択
暗号キー	上記の条件に基づいた文字列を作成



WEPの暗号キーのビット数には、152ビットもありますが、本製品では128ビットまでのみ対応しています。



同じ無線LANネットワークに存在するアクセスポイント(または無線ルータ)、無線LANアダプタのWEP設定はすべて同じ内容にする必要があります。設定が異なると無線LANでデータを送受信することはできません。

●暗号化のビット数

64ビット(40ビットと互換あり)、128ビットなどのビット数があります。ビット数が高いほどセキュリティ度が高くなり解読が困難になります。

●暗号キーの文字種（キーフォーマット形式）

暗号キーとは暗号化の元になる文字列です。ASCIIテキスト(半角英数字)と16進数から選択できます。

ASCIIテキスト(半角英数字)	半角英数字(ASCII文字)を使用することができます。全角文字や記号、スペースは使えません。大文字と小文字が区別されます。
16進数	半角文字の16進数を使用することができます。16進数とは0～9の数字とa～fの文字で構成される文字列です。全角文字や記号、スペースは使えません。また、大文字と小文字は区別されません。 例) 128ビット16進数の場合→0c2f91a27b45fe2cd864e32c01b

●WEPキー番号

暗号キーはキー1～キー4の最大4つまで登録することができます。同じ無線LANネットワークでは必ず同じキー番号を有効にし、そのキー番号に同じ暗号キーを入力する必要があります。

●暗号キー

暗号キーはデータを暗号化するためのキーワードになる文字列のことです。暗号キーの文字数は暗号化のビット数と暗号キーの文字種で決まります。必ず決められた文字数で暗号キーを作成します。

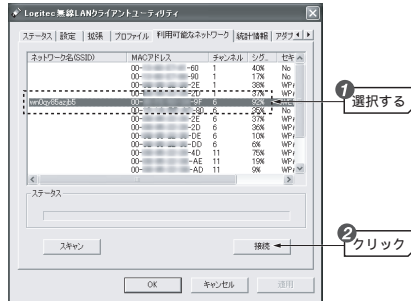
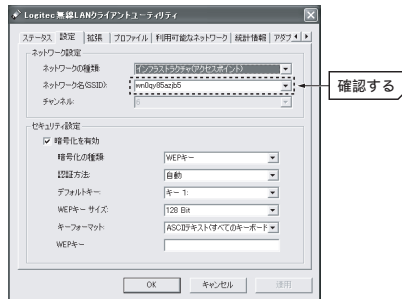
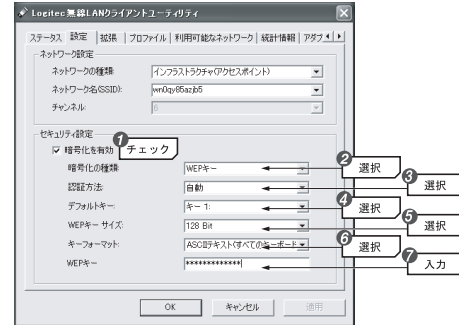
	半角英数字を入力する場合	16進数を入力する場合
64ビット	5文字の半角英数字	10文字の16進数
128ビット	13文字の半角英数字	26文字の16進数

WEPの設定手順

WEPは無線ルータやアクセスポイントおよび、通信するすべての無線クライアントで同じ値に設定する必要があります。

1 本製品のクライアントユーティリティを表示します。

・詳しくはP11の手順 **1** **2** を参照してください。

2 <利用可能なネットワーク>タブを選択し、設定したいネットワーク名(SSID)を選択して、**接続** ボタンをクリックします。**3** <設定>画面が表示されます。[ネットワーク名(SSID)]に選択したSSIDが表示されていることを確認します。**4** 「セキュリティ」設定に、WEPの各設定を登録していきます。**①** 暗号化を有効

通常はチェックされた状態で画面が表示されます。もしチェックされていない場合は、チェックします。

② 暗号化の種類

「WEPキー」を選択します。

③ 認証方法

通常は「自動」を選択します。必要に応じて、オープン認証/シェアード認証から選択します。

※オープン認証/シェアード認証については、P35を参照してください。

④ デフォルトキー

「キー-1」～「キー-4」から、使用するキー番号を選択します。選択したキー番号に対応する「WEPキー-サイズ」、「キーフォーマット」、「WEPキー」を複数登録しておき、切り替えて使用することもできます。

⑤ WEPキー-サイズ

「40/64Bit/128Bit」から選択します。

⑥ キーフォーマット

「16進数/ASCIIテキスト」から選択します。

⑦ WEPキー

暗号化キーの文字列を入力します。

- ・文字数は指定数より多くても少なくともエラーになります。
- ・使用しないキーに暗号キーを入力しても問題ありません。

	半角英数字を入力する場合	16進数を入力する場合
64ビット	5文字の半角英数字	10文字の16進数
128ビット	13文字の半角英数字	26文字の16進数

※ ASCII 文字は半角英数字で大文字/小文字が区別されます。

16 進数は a~f および 0~9 の半角英数字の組み合わせで大文字/小文字は区別されません。



任意の文字列を第三者に簡単に推測できる文字列にすると簡単に解読される恐れがありますので注意してください。たとえば「yamada」では簡単に推測されますが、「ya02maxyz1st9」のように意味のない文字列だと簡単には推測されません。



このあと設定を保存するために **OK** ボタンをクリックすると、表示されていた暗号キーは「*」表示になります。手入力の場合は **OK** ボタンをクリックする前に、メモするなどして大切に保管してください。

- 5** 入力が終わって **OK** ボタンをクリックすると、クライアントユーティリティの画面が閉じます。画面を表示させておきたい場合は、**適用** ボタンをクリックして設定内容を保存します。



- 6** 設定はこれで完了です。このあと正常に接続できるかを確認してください。正常に接続できれば、すべての無線LANクライアントに同じ設定をしてください。

WPA-PSKを設定する

WPA-PSK(WPAバスマフレーズ)の設定について説明します。無線ルータやアクセスポイント側にWPAバスマフレーズを設定した場合は、設定した「バスマフレーズ(事前共有キー)」の情報をご確認ください。WPA-PSKは、アドホック・モードでは使用できません。



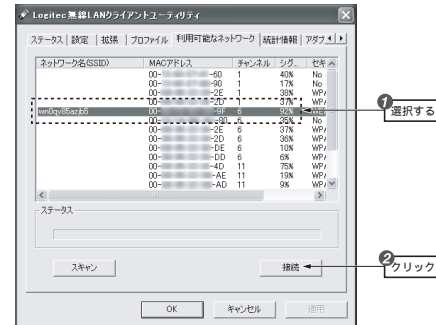
事前共有キーについて

事前共有キーのバスマフレーズは半角英数字8~63文字で作成します。全角文字や記号、スペースは使えません。大文字と小文字が区別されます。

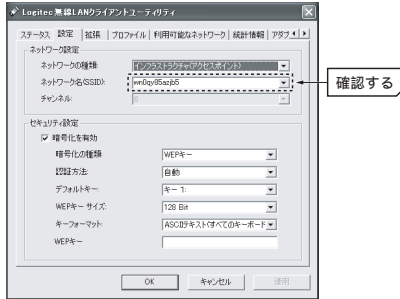
- 1** 本製品のクライアントユーティリティを表示します。

・詳しくはP111の手順 **1** **2** を参照してください。

- 2** 利用可能なネットワークタブを選択し、設定したいネットワーク名(SSID)を選択して、**接続** ボタンをクリックします。



- 3** <設定>画面が表示されます。[ネットワーク名(SSID)]に選択したSSIDが表示されていることを確認します。



4 「セキュリティ」設定に、WPA-PSKの各設定を登録していきます。



①暗号化を有効

通常はチェックされた状態で画面が表示されます。もしチェックされていない場合は、チェックします。

②暗号化の種類

「WPA-PSK」を選択します。

③WPA-PSK

WPA/パスフレーズ(半角英数字8~63文字)を入力します。

注意 このあと設定を保存するために **OK** ボタンをクリックすると、表示されていた暗号キーは「*」表示になります。手入の場合は **OK** ボタンをクリックする前に、メモするなどして大切に保管してください。

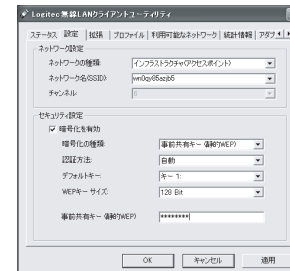
- 5 入力が終わって **OK** ボタンをクリックすると、クライアントユーティリティの画面が閉じます。画面を表示させておきたい場合は、**適用** ボタンをクリックして設定内容を保存します。



- 6 設定はこれで完了です。このあと正常に接続できるかを確認してください。正常に接続できれば、すべての無線LANクライアントに同じ設定をしてください。

事前共有キー(静的WEP)を設定する

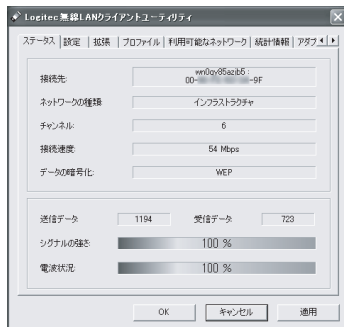
ご使用になる無線LANルータ/アクセスポイントの設定によっては、WEPの設定で、WEPキーそのものではなく、「パスフレーズ」の入力を求められることがあります。このような環境で本製品をご使用になる場合は、[暗号化の種類] に「事前共有キー(静的WEP)」を選択して[事前共有キー(静的WEP)] にパスフレーズを入力してください。それ以外の手順はWEPと同じです。P25「WEPを設定する」を参照してください。



3 クライアント ユーティリティのリファレンス

[ステータス] タブ

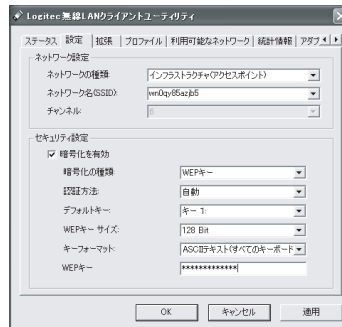
現在の通信状態を表示します。使用しているネットワークのプロファイル名、リンク状態、接続先の各種情報を確認できます。



接続先	現在接続しているネットワーク名 (SSID) と、接続先の MAC アドレスを表示します。
ネットワークの種類	現在の通信モードを表示します。
チャンネル	現在使用しているチャンネルを表示します。
接続速度	現在の接続速度を表示します。
データの暗号化	接続先が暗号化機能を使用している場合に、暗号化機能の種類を表示します。
送信データ	接続を開始してからの送信パケット数を表示します。
受信データ	接続を開始してからの受信パケット数を表示します。
シグナルの強さ、電波状況	信号の強さ、電波の強さをインジケータと数値で表示します。バーが右にいくほど信号、電波が強いことを示します。

[設定] タブ

接続する無線ネットワーク、セキュリティについて設定します。設定を変更した場合は、必ず「適用」ボタン/「OK」ボタンをクリックして設定を保存してください。



ネットワークの種類

インフラストラクチャ・モード/アドホック・モードを選択します。

アドホック	本製品を無線ルータやアクセスポイントを経由せず、無線 LAN アダプタ同士で通信するアドホック・モードの場合に選択します。アドホックを選択すると、「チャンネル」が選択できるようになります。
インフラストラクチャ (アクセスポイント)	本製品をインフラストラクチャ・モードで使用します。

ネットワーク名 (SSID)

接続する無線ネットワーク名 (SSID) を設定します。一度接続したネットワーク名は、プルダウンメニューから選択できます。



「ANY(最初の利用可能なアクセスポイント)」を選択すると、意図しないアクセスポイントに接続されてしまうことがあります。この設定で接続した場合は、必ず[ステータス]タブの「接続先」で接続先を確認し、意図しないネットワーク名であった場合は、設定をやり直してください。

チャンネル

インフラストラクチャ・モードでは、接続したアクセスポイントのチャンネルを自動的に使用します。設定は変更できません。
アドホック・モードを選択した場合に、使用チャンネル(1~13)を指定できます。

暗号化を有効

セキュリティ機能を設定する場合は、このチェックボックスをチェックします。

暗号化の種類

セキュリティ(暗号化)機能を選択します。

WEPキー	セキュリティ機能としてWEPを選択します。
事前共有キー (静的WEP)	セキュリティ機能として事前共有キー(静的WEP)を選択します。
WPA-PSK	セキュリティ機能としてWPA-PSKを選択します。

認証方法

認証方法を選択します。アクセスポイントの設定に合わせて設定します。通常は「自動」を選択してください。
※暗号化の種類に「WPA-PSK」を選択した場合は、表示されません。

自動	オープン認証/シェアード認証を自動判別します。
オープン認証	オープン認証で接続します。
シェアード認証	シェアード認証で接続します。

デフォルトキー

WEPキー番号をキー1~キー4から選択します。

※暗号化の種類に「WPA-PSK」を選択した場合は、表示されません。

WEPキーサイズ

WEPキーのサイズ(ビット数)を選択します。

※暗号化の種類に「WPA-PSK」を選択した場合は、表示されません。

40/64 Bit	WEPキーサイズに64(40)ビットを選択します。 ※40ビットと64ビットには互換性があります。
128 Bit	WEPキーサイズに128ビットを選択します。 40/64ビットに比べ、セキュリティ度が高くなります。

キーフォーマット

WEPキーの文字種を選択します。

※暗号化の種類に「WPA-PSK」を選択した場合は、表示されません。

16進数 (0~9, A~F)	WEPキーに半角文字の16進数を使用します。16進数とは、0~9の数字と、a~fの文字で構成される文字列です。大文字と小文字は区別されません。
ASCIIテキスト (すべてのキーボード文字)	WEPキーに半角英数字(ASCII文字)を使用します。大文字と小文字が区別されます。

WEPキー

WEPキー(暗号キー)を入力します。全角文字や記号、スペースは使えません。「WEPキーサイズ」、「キーフォーマット」の組み合わせで入力できる文字種が変わります。

※暗号化の種類に「WPA-PSK」を選択した場合は、表示されません。

	ASCIIテキスト	16進数
64ビット	5文字の半角英数字	10文字の16進数
128ビット	13文字の半角英数字	26文字の16進数

WPA-PSK

暗号化の種類に「WPA-PSK」を選択した場合に、事前共有キー(パスフレーズ)を入力します。事前共有キーは、半角英数字8～63文字で作成します。全角文字や記号、スペースは使えません。大文字と小文字が区別されます。
※暗号化の種類に「WPA-PSK」を選択した場合にのみ表示されます。

事前共有キー(静的WEP)

暗号化の種類に「事前共有キー(静的WEP)」を選択した場合に、パスフレーズを入力します。全角文字や記号、スペースは使えません。また、大文字と小文字が区別されます。
使用できる文字種と文字数は次のとおりです。

- ・「暗号化キー」に64Bitを選択 →5文字の半角英数字
- ・「暗号化キー」に128Bitを選択 →13文字の半角英数字

※暗号化の種類に「事前共有キー(静的WEP)」を選択した場合にのみ表示されます。

【拡張】タブ

本製品の詳細機能を設定します。
設定を変更した場合は、必ず「適用」ボタン／「OK」ボタンをクリックして設定を保存してください。



ワイヤレス モード

「自動」から変更することはできません。

省電力モード

省電力モードを設定します。

Off	省電力モードを使用しません
ノーマル(初期値)	消費電力を抑えることよりも、電波の受信率を高めることを優先します。
最大	消費電力を抑えることを優先します。そのため電波の受信率が下がることがあります。

送信パワーレベル

送信信号の強度を設定します。強度を下げることで、無線の送信範囲を小さくすることができます。次の値から選択します。

自動(初期値)/12.5/25/50/75/100%

プリアンブル タイプ

無線通信の同期をとるプリアンブル信号の種類(長さ)を選択します。

通常は初期値(自動)から変更する必要はありません。

自動(初期値)	ショートプリアンブル、ロングプリアンブルの双方に対応します。
ロングプリアンブル	ロングプリアンブルにのみ対応します。比較的古いタイプの無線クライアントとの互換性を確保するための設定です。
ショートプリアンブル	ショートプリアンブルにのみ対応します。「自動」で通信品質が低下する場合、こちらを選択すると改善されることがあります。

チャンネルセット

「Japan」から変更することはできません。

フラグメンテーション閾値(しきい値)

サイズの大きなパケットが断片化されて送信される際の、断片化されたパケットの最小サイズを設定します。スライドバーを選択して、ドラッグすることで、256~2432バイトの値を設定できます。

通信品質が悪い場合、この値を小さくすると改善されることがあります。

通常は初期値(2432バイト：無効)から変更する必要はありません。

RTS/CTS閾値(しきい値)

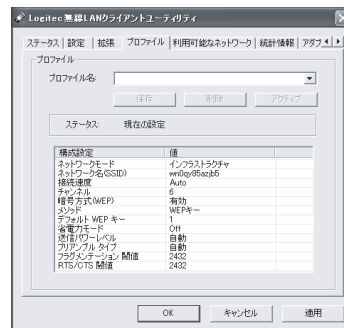
RTS/CTSプロトコルを使用するパケットの最小サイズを設定します。スライドバーを選択して、ドラッグすることで、256~2432バイトの値を設定できます。

RTS/CTSプロトコルは、いわゆる「隠れ端末」問題を解決するもので、無線クライアント同士の距離が離れている場合に双方のパケットの衝突を防ぎます。通常は初期値(2432バイト：無効)から変更する必要はありません。

※RTS(Request to Send：送信要求)、CTS(Clear to Send：送信クリア)

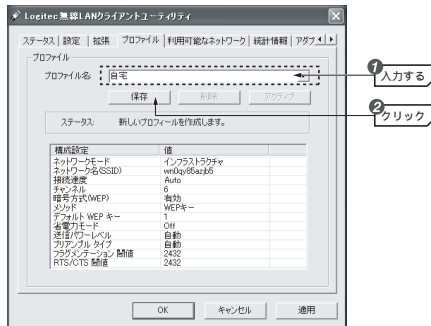
【プロファイル】タブ

本製品では、セキュリティ設定などの無線LAN設定を「プロファイル」の形式で管理します。複数の無線LAN設定を保存して切り替えることができるので、複数の無線ネットワークへ切り替えて接続する際に便利です。



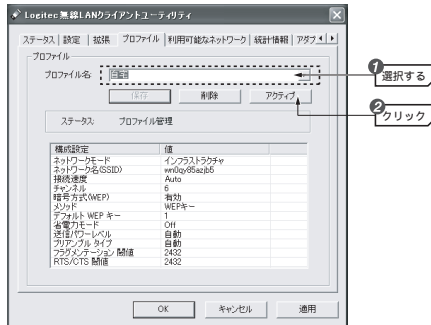
●設定を保存する

無線ネットワークに接続した状態で、「プロファイル名」に任意の名称を入力し、**保存** ボタンをクリックします。現在の設定が保存され、プルダウンメニューから選択できるようになります。



●保存した設定を呼び出す

「プロファイル名」から呼び出したいプロファイルを選択し、**アクティブ** ボタンをクリックします。〈ステータス〉画面が表示され、保存した設定で無線ネットワークに接続されます。



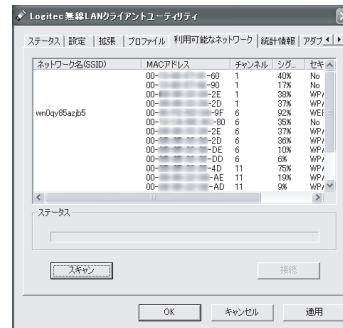
「Default」を選択すると、本製品の設定が工場出荷時の初期設定に戻ります。

●保存した設定を削除する

「プロファイル名」から削除したいプロファイルを選択し、**削除** ボタンをクリックします。

[利用可能なネットワーク] タブ

利用可能な無線ネットワークの一覧を表示します。この画面から使用するネットワーク名を選択し、〈設定〉画面でネットワーク設定をおこないます。



表示項目

一覧画面で表示されるネットワークの情報を次に示します。

ネットワーク名(SSID)	無線ネットワーク(アクセスポイント)のSSIDを表示します。
MACアドレス	アクセスポイントのMACアドレスを表示します。
チャンネル	使用しているチャンネルを表示します。
シグナル	受信電波の強度を%で表示します。
セキュリティ設定	アクセスポイントのセキュリティ設定を表示します。 ・No セキュリティは設定されていません。 ・WEP WEPが設定されています。 ・WPA WPAが設定されています。
モード	ネットワークの種類(インフラストラクチャ/アドホック)が表示されます。

スキャン

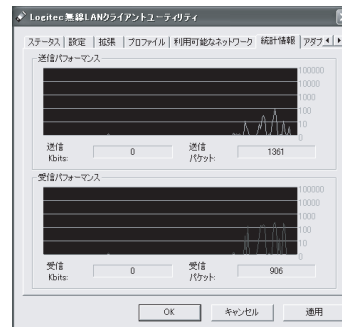
スキャン ボタンをクリックすると、利用可能なネットワークの一覧が更新されます。

接続

接続 ボタンをクリックすると、利用可能なネットワークの一覧で選択したネットワークの基本情報を取得して、〈設定〉画面を表示します。

[統計情報] タブ

本製品が送信／受信したパケット数をリアルタイムでグラフに表示します。



[アダプタ情報] タブ

ファームウェアのバージョンなどのデバイス情報、クライアントユーティリティのバージョンを表示します。



Tips 用語解説

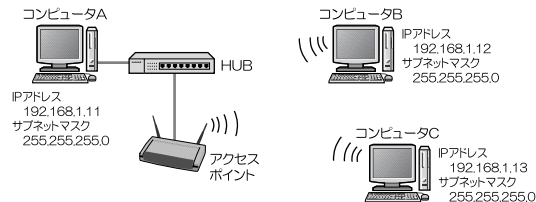
IP アドレスについて

インターネットなど TCP/IP プロトコルを利用してデータをやり取りする場合は、各パソコンに IP アドレスを設定する必要があります。ルータをご利用の場合は、DHCP サーバ機能により、各パソコンに自動的に IP アドレスが割り当てられます。しかし、ルータがないネットワークでは手動で IP アドレスを設定する必要があります。

●IP アドレスとは

IP アドレスとは TCP/IP プロトコルを使用する場合に必要なになります。インターネットへの接続や Windows でファイルを共有する場合に IP アドレスの設定が必要です。IP アドレスはネットワーク上のパソコンを識別するためのアドレス番号です。そのためパソコンごとに異なるアドレス番号を設定する必要があります。

小規模なローカルネットワークでは「192.168.1.xx」といったような IP アドレスを使用するのが一般的です。「xx」のところは「11」「12」「13」というように順番に各パソコンに割り当てるとよいでしょう。サブネットマスクはすべてのパソコンに同じ数値を割り当てます。「255.255.255.0」が一般的です。



●DHCP サーバ機能

IP アドレスを各パソコンに手動で割り当てるのは手間のかかる作業です。DHCP サーバ機能を利用すると IP アドレスを自動的に各パソコンに割り当てることができます。そのためインターネットプロトコルである TCP/IP プロトコルが必須になるルータでは標準機能として装備されています。

Chapter 4

付 録 編

付録編では、付属のCD-ROMに入っている「ネットワーク設定マニュアル」の使い方の説明や、本製品がうまく動作しない場合のトラブルシューティング「こんなときは」などを説明しています。「こんなときは」やFAQをお読みになっても解決しない場合は、別冊の「セットアップガイド（導入編）」の「サポートサービスについて」をご覧ください。

1. ネットワーク設定マニュアルの読み方	48
2. 無線LANトラブル・チェック	50
3. こんなときは	53
4. 補足事項	56
補足1：PCカードスロットの動作確認	56
補足2：正常にインストールされなかった ドライバの削除方法	58
補足3：本製品のIPアドレスを知りたいとき	59
補足4：Windows 98のバージョン確認方法	60
補足5：Windows XP標準ワイヤレス ネットワーク機能を有効にする	61

1 ネットワーク設定マニュアルの読み方

本製品に付属のCD-ROMの中にはOSごとのネットワーク設定の方法について説明したPDF版「ネットワーク設定マニュアル」を収録しています。

●マニュアルの概要

このマニュアルは、ネットワークの基本的なことを説明した「基礎知識編」とOSごとのネットワーク設定の方法を説明した「各OS編」に分かれています。必要なファイルだけをA4サイズの用紙に印刷してご利用いただくと便利です。なお、カラー対応になっていますのでカラープリンタで印刷していただくと、より分かりやすくなります。



ネットワーク設定マニュアルは有線LANでの説明になっていますが、無線LANでもネットワーク設定の方法は同じです。

●利用方法

- ① 付属のCD-ROMをドライブに入れ、セットアップメニューを表示します。
- ② セットアップメニューの「FAQ」をクリックし、FAQ（Logitechサポート情報）を表示します。
- ③ FAQトップページの一番下に「ネットワーク設定マニュアル」のリンクがありますので、クリックして説明をお読みください。



マイコンピュータなどでCD-ROMの内容を表示し、「Manual」フォルダに収録されているファイルを直接ダブルクリックしてもご覧いただけます。

「manual」フォルダの内容

「manual」フォルダには、本製品のマニュアルも収録されています。ネットワーク設定マニュアルのファイルは次のとおりです。

- ・ ネットワーク設定マニュアルの利用法 (.PDF)
- ・ 1-基礎知識編 (.PDF)
- ・ 2-XP編 (.PDF)
- ・ 3-ME_98編 (.PDF)
- ・ 4-2000編 (.PDF)

●Adobe Acrobat Readerをお持ちでない場合

「ネットワーク設定マニュアル」をお読みになるには、Acrobat (Adobe) Readerが必要です。お持ちでない場合は付属のCD-ROMからインストールしてください。

- ①マイコンピュータなどから付属のCD-ROMの内容を表示します。
- ②「acrobat_reader」フォルダがありますので、その内容を表示します。
- ③フォルダ内のプログラムアイコンをダブルクリックします。
- ④画面のメッセージに従ってインストールしてください。

2 無線LANトラブル・チェック

■はじめに

無線LANに接続できない場合は、いったんすべての機器の電源を切ってください。

次に以下の順に電源を入れ、もう一度接続できないか確認してください。

- ①ルータタイプのブロードバンドモデム、無線ルータをご使用の場合は、それらの電源を入れます。
- ②アクセスポイントをご使用の場合は、アクセスポイントの電源を入れます。
- ③無線LANクライアントの電源を入れます。
- ④この状態で接続できないかを確認してください。接続できない場合は、このあとの[1]～[4]の順にチェックしてみてください。



添付CD-ROMのセットアップメニューから閲覧できる「FAQ」もご参照ください。

[1]クライアントユーティリティが起動するかを確認してください。

●**起動する**→[2]へ進みます。

●**起動しない**→本製品のドライバが正常にインストールされていない可能性があります。いったんドライバを削除してから、再インストールしてください(別冊の「セットアップガイド(導入編)」を参照)。

●**クライアントユーティリティが見あたらない**→Windowsの[プログラム]メニューに [Logitech]→[LAN-WG]→[Logitechクライアント ユーティリティ]がない場合は、クライアントユーティリティを再インストールしてください(別冊の「セットアップガイド(導入編)」を参照)。

※インストール時にプログラムの場所やフォルダ名を変更している場合は、変更した場所を探してください。

[2]クライアントユーティリティを起動したら、<利用可能なネットワーク>タブをクリックして表示される、利用可能なインフラストラクチャとアドホックネットワークに接続先のアクセスポイントまたは無線クライアントのSSIDが表示されるかを確認してください。

●表示される→無線LAN機能は正常に動作しています。P18を読んで接続操作をしてください。相手の共有フォルダが見えない場合は、ネットワーク設定が正しくありません。ネットワーク設定マニュアル(→P48)をお読みにになり、ネットワーク設定をおこなってください。

●表示されない→[3]へ進みます。

[3]無線LANクライアントが複数ある場合は、すべて接続できないのか、特定の無線クライアントだけが接続できないかを確認してください。

●特定の無線クライアントだけが接続できない場合

- A. その無線LANクライアントの無線LAN設定が間違っている可能性があります。そのクライアントのクライアントユーティリティを使ってSSID、通信モード、WEPなどセキュリティ設定が正しいかをご確認ください。
- B. アクセスポイントにMACアドレスフィルタリングを設定している場合は、アクセスポイントのユーティリティを使って、その無線LANクライアントが接続可能になっていることを確認してください。

[ヒント]通信モードとは

アクセスポイントを使用せず、無線LANクライアント同士で通信する場合はアドホック・モードといいます。この場合は<設定>タブの「ネットワークの種類」(P12の手順 **4** 参照)で設定する必要があります。

●どの無線LANクライアントからも接続できない場合、または、1台しか無線LANクライアントがない環境で接続できない場合

→インフラストラクチャ・モードの場合、アクセスポイントおよび無線LANクライアントのそれぞれの無線LAN設定を確認してください。

[ヒント]

アクセスポイントと1台の無線LANクライアントについて、WEPなどのセキュリティ設定を無効にした状態で接続してみてください。その状態で接続できた場合は、セキュリティ設定が間違っています。それでも接続できない場合はSSIDと通信モードが正しいかを確認してください。

[4]それでも接続できない場合は、次の「3.こんなときは」を参照してみてください。

無線LAN関係のトラブル

MEMO 添付CD-ROMのセットアップメニューから閲覧できる「FAQ」もご参照ください。

ネットワークの設定について

ネットワーク設定やIPアドレスを手動で割り当てる方法については、付属のCD-ROMにあるPDF版「ネットワーク設定マニュアル」に詳しい説明がありますので参考にしてください。「ネットワーク設定マニュアル」の使い方についてはP48「1.ネットワーク設定マニュアルの読み方」をお読みください。

●無線LANが繋がらない。

- ①通信モードを正しく設定していますか。アドホック・モードの場合は「プロファイル管理」ウィンドウでアドホック・モードを使用するように設定する必要があります(P12の手順 **4**)。また、詳細設定で設定を間違えると正しく接続できないことがあります。
- ②ネットワーク設定で実際のネットワーク環境に応じたプロトコル、サービスなどの設定をしていますか。プロトコル(TCP/IPなど)、クライアント(Microsoft Networkクライアントなど)、サービス(Microsoft Network共有サービスなど)を環境に応じて設定する必要があります。
- ③ルータなどのDHCPサーバ機能を使用せずにインターネットプロトコル「TCP/IP」を利用する場合は、各パソコンに手動でIPアドレスを割り当てる必要があります。手順については、「ネットワーク設定マニュアル」に詳しい説明がありますので参考にしてください(→P48)。
 - ◆CATVインターネットなどでは、回線事業者からIPアドレスを指定される場合があります。その場合は指示に従ってください。
- ④本製品のセキュリティ設定やアクセスポイントのMACアドレスフィルタリング設定は正しいですか。セキュリティ設定は、無線LANネットワーク上

にあるすべての機器で同じ設定にする必要があります。また、MACアドレスフィルタリングを設定していると、設定条件によっては無線LANに接続できない場合があります。

●アドホック・モードでつながらない。

無線LANカードのうち1枚は、必ずSSIDを設定してください。

●セキュリティ機能を設定後に無線LANが繋がらない。

- ①セキュリティ設定は、同じ無線LANネットワーク上にあるすべての機器で同じ設定になっている必要があります。設定が少しでも異なる機器はネットワークに接続することができません。
- ②各セキュリティ機能で使用するパスワードや暗号などの文字列は大文字と小文字が区別されたりします。また、意味のない文字列は入力ミスが発生しやすいので特に注意して確認してください。
 - ◆セキュリティ設定でのトラブルのほとんどがスペルミスや設定ミスですのでよく確認してください。
- ③設定を変更した直後や設定が正しい場合は、アクセスポイントを含め、すべての機器の電源を入れ直してから接続してみてください。

共通のトラブル

●インターネットに接続できない

- ①TCP/IPプロトコルが正しく設定されているかを確認してください。〈ネットワーク〉画面でTCP/IPプロトコルが設定されているかを調べてください。見あたらない場合は、TCP/IPプロトコルを追加してください。
- ②DHCPサーバ機能を使用していない場合は、IPアドレスを手動で割り付けてください。TCP/IPのプロパティにある〈IPアドレス〉タブで設定します。手順については、「ネットワーク設定マニュアル」に詳しい説明がありますので参考してください(→P48)。
- ③TCP/IPプロトコルの設定が正しいかを確認してください。プロバイダによって、IPアドレスを自動取得する場合と固定IPアドレスを指

定する場合があります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

- ④プロバイダから提供された情報をすべて設定したかを確認してください。IPアドレス以外にも、識別情報の指定などが必要なことがあります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

●本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークパソコンを開くと「ネットワークを参照できません。」のエラーが表示される。

- ①正常にネットワークの設定ができていない可能性があります。もう一度、デバイスマネージャなどで本製品の設定を確認し、OS側が本製品を正常に認識しているか調べてください。

●他のパソコンのファイルやプリンタの共有ができない。

- ①ネットワーク設定をしましたか。
無線LANが正常に動作していてもネットワーク設定ができていないとファイルの共有やプリンタの共有はできません。
「ネットワーク設定マニュアル」に詳しい説明がありますので参考にしてください(→P48)。

- ②ネットワークには接続できて相手側へ入れるようになったが、相手側のドライブやプリンタの使用ができないときは次の点を確認してください。

- ・利用者がアクセスを許可するユーザとして登録されていますか。ユーザが登録されているか確認してください。
- ・利用者が共有フォルダにアクセスできるように設定していますか。また、アクセス内容を正しく設定していますか。NTFSフォーマットのハードディスクの場合は、さらにセキュリティ設定でも利用者を登録しておく必要があります。

●Windows XP/2000でネットワーク設定ができない。

Administrator権限でログオンしていますか。ネットワークの各種設定にはAdministrator権限がないと設定できない項目があります。

4 補足事項

補足1:PCカードスロットの動作確認

ご使用になるパソコンのPCカードスロットが正常に動作しているかを確認します。本製品はCardBus専用です。

1 デバイスマネージャを表示します。表示方法はOSによって異なります。

●Windows XP/2000の場合

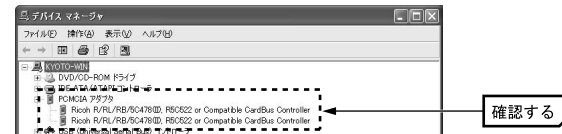
- ①Windows XPでは、[スタート]ボタンをクリックし、[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、メニューの[プロパティ]を選択します。
Windows 2000では、デスクトップにある[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、メニューの[プロパティ]を選択します。
- ②<ハードウェア>タブを選択し、**デバイスマネージャ** ボタンをクリックします。

●Windows Me/98SEの場合

- ①デスクトップの[マイコンピュータ]にカーソルを合わせます。
②マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]を選択します。
③Windows Me/98SEでは<システムのプロパティ>画面が表示されますので、<デバイスマネージャ>タブを選択します。

2 「PCMCIAソケット(XPではアダプタ)」の をクリックし、PCMCIAソケットの内容を表示します。(!)や(X)のマークがコントローラに付いていないことを確認します。

●Windows XPの画面例



※画面は一例です。表示されるコントローラの名称や数はお使いのパソコンによって異なります。



- PCカードスロットがCardBus（カードバス）に対応していることを確認してください。
- (!)や(X)のマークがコントローラ名に付いている場合は、PCカードスロットが正常に動作していません。パソコン本体のマニュアルをお読みになり正しく動作するように設定してください。

3 PCカードスロットが正常に動作していることを確認したら、**OK** ボタンをクリックし、開いた画面をすべて閉じます。

補足2: 正常にインストールされなかったドライバの削除方法

ドライバが正しくインストールされなかった場合、デバイスマネージャで本製品のドライバを確認すると、×マークや！マークが表示されます。このような場合は、いったんドライバを削除し、インストールをやり直してください。

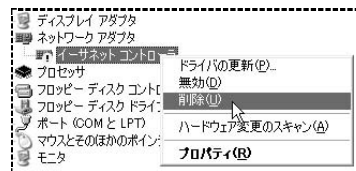
MEMO

ドライバが正しくインストールされなかった場合、デバイスマネージャの[ネットワークアダプタ]ではなく、[その他のデバイス]など他の場所に登録されていることがあります。間違っても登録されたドライバも必ず削除してください。

①OSによってデバイスマネージャの表示方法が異なります。P56の手順

1 を参照してください。

②×マークまたは！マークの付いた本製品のドライバ名を右クリックし、メニューの[削除]を選択します。



③削除を確認するメッセージが表示されますので、**OK** ボタンをクリックします。

④以降、別冊「セットアップガイド（導入編）」の「ドライバのアンインストール」と同様にドライバの削除を完了させます。

⑤削除が完了したら、別冊「セットアップガイド（導入編）」を参照してセットアップをもう一度やり直してください。

補足3:本製品のIPアドレスを知りたいとき

A. Windows XP/2000の場合

コマンドプロンプトを表示し、「ipconfig」を実行してください。

(例)Windows XPでの実行方法

- ① [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を選択します。
- ② 「>」の後ろでカーソルが点滅していますので、キーボードから「ipconfig」と入力し、**[Enter]** キーを押します。
- ③ IPアドレス等が表示されます。

```
C:\Documents and Settings\User>ipconfig

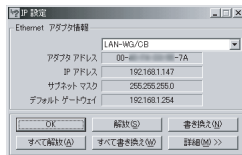
Windows IP Configuration

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

    Connection-specific DNS Suffix  . : WorkGroup
    IP Address. . . . . : 192.168.1.16
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . : 192.168.1.254
```

B. Windows Me/98SEの場合

- ① [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
- ② 「名前」に「winipcfg」と入力し、**[OK]** ボタンをクリックします。
- ③ <IP設定>画面が表示されます。終了するときは、画面右上の**[X]**をクリックします。

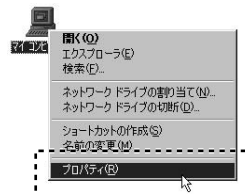


- もし、IPアドレス、サブネットマスクなどが正常に取得できていないようであれば、**[すべて書き換え]** ボタンをクリックします。
- IPアドレス自体が取得できない場合は、クライアントが正常にネットワークに接続されていないか、本製品のDHCPサーバ機能が「使用しない」に設定されているなどが原因として考えられます。

補足4:Windows 98のバージョン確認方法

Windows 98にはWindows 98とWindows 98SE(Second Edition)の2種類があります。本製品はWindows 98SEには対応していますが、Windows 98に対応していません。ご使用のWindows 98がどちらのバージョンであるかは以下の操作で確認してください。

- ① デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、メニューから**[プロパティ]**を選択します。



- ② <システムのプロパティ>画面の【全般】タブにある「システム」の内容を確認します。Windows 98SEの場合は「Second Edition」と表示されています。

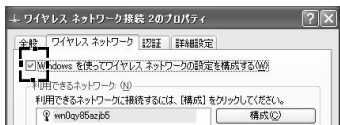


- バージョン番号はWindows 98SEでは「4.10.2222」と表記されています。「4.10.1998」と表記されている場合はWindows 98です。この場合は本製品を使用することはできません。

補足5: Windows XP標準ワイヤレスネットワーク機能を有効にする


本製品のクライアントユーティリティをインストールするとWindows XP標準のワイヤレスネットワーク機能が自動的に無効になります。本製品ではこの機能を使用しませんが、同じパソコンですでに使用中の無線LANアダプタがあり、今後も併用する場合は、使用中の無線LANアダプタがWindows XP標準のワイヤレスネットワーク機能を利用できるように設定を変更する必要があります。以下の手順で設定を変更してください。

- ① Windows XP標準のワイヤレスネットワーク機能を使用する無線LANアダプタを取り付けた状態で、Windowsを起動します。
- ② タスクトレイにある[ワイヤレスネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
- ③ [詳細設定]ボタンまたは[プロパティ]ボタンをクリックします。
※表示される画面によってボタンが異なります。
- ④ 【ワイヤレスネットワーク】タブにある[Windowsを使ってワイヤレスネットワークの設定を構成する]をオン(有効)にします。
※無効にしたい場合はこのチェックを外してください(→P11)
- ⑤ プロパティの **OK** ボタンをクリックして画面を閉じます。
- これでWindows XP標準のワイヤレスネットワーク機能が使用できるようになります。



Windows XP標準のワイヤレスネットワーク機能を併用しない場合でも、なんらかの原因でクライアントユーティリティのアイコンをダブルクリックしたときに[ワイヤレスネットワークのプロパティ]画面が表示されてしまうことがあります。その際は、同様の手順でWindows XP標準のワイヤレスネットワーク機能を無効にしてください

無線LANカード ユーザーズマニュアル (LAN-WG/CB用)

発行  ロジテック株式会社 2006年3月 第1版

©2006 LOGITEC CORPORATION. All rights reserved.

0601-WLAN-006N

Logitech